



毎年11月～4月、湖には冬の使者オオハクチョウが飛来し、その数は600～700と言われている。



屈斜路湖岸のキャンプ場は毎年多くの人で賑わう

美幌峠からの眺望／名前はアイヌ語の「クッ(喉元)チャロ(口)」からきている。湖の水が釧路川に流れる落ち口の意味。湖の周囲は57km、面積は79.3kmで、湖の広さは日本で6番目。屈斜路カルデラ(東西26km、南北22km)は国内最大で、世界ではインドネシア・スマトラ島のトバ湖カルデラに次いで2位

# 屈斜路湖

屈斜路湖には大自然が紡ぎ出すいくつもの物語がある。

原始の森が湖底に眠っている神秘的湖、それが屈斜路湖だと、ある地元の人は、いわくありげにささやく。運がよければ湖を巡る遊覧船から黒い影を見ることができると話す人もいるが、その真の姿をはっきりと見た人は、まだほんのわずからしい。この不可思議な森の誕生は、屈斜路湖の歴史のほんのひとこまに過ぎない。

今から3万年前、この地に大噴火が起こった。その後は、噴火しては荒地となり、樹木が生え、また噴火の繰り返しだったという。そして7～8千年前、現在の屈斜路カルデラの輪郭がほぼできかかった頃、一帯に深い原始林が生い茂ったが、突如、大地が陥没。そのカルデラに水が満々とたたえられ、湖となったのである。なんと悠久のときの、きまぐれな仕業なのだろうか。昭和48年頃から話題になったクッシー騒動・厳冬期には湖をふたつに裂いて走るお神渡りの神秘、波の力でマリモにも似たマリゴケが出来る不思議、基石にたとえられる石が並ぶ基石浜、まさに屈斜路湖は謎のベールに包まれ、巨大な姿を朝に夕に色を変え、霧に姿を見え隠れさせながらたたずむ。



和琴半島オヤコツ地獄



【屈斜路湖保全の取り組み】近年、魚類などの水産資源が復活の兆しがあるなか、町ではこうした限りある資源を、将来にわたってたくさんの方々に楽しんでいただくため、さまざまな取り組みをおこなっています。屈斜路湖がいつまでも皆様楽しんでいただけるようがんばっています。